

令和元年度

全国剣詩舞コンクール決勝大会

来場歓迎・入場無料

後援

N 文

H 化

K 庁

●とき 令和元年9月15日(日)
午前9時開場・9時30分開始

●ところ 笹川記念会館国際ホール(裏表紙参照)

主催

公益財団法人 日本吟剣詩舞振興会

(最寄駅) ●JR田町駅(三田口)より徒歩約10分
●地下鉄都営浅草線、泉岳寺駅より徒歩約7分

公益財団法人 日本吟剣詩舞振興会

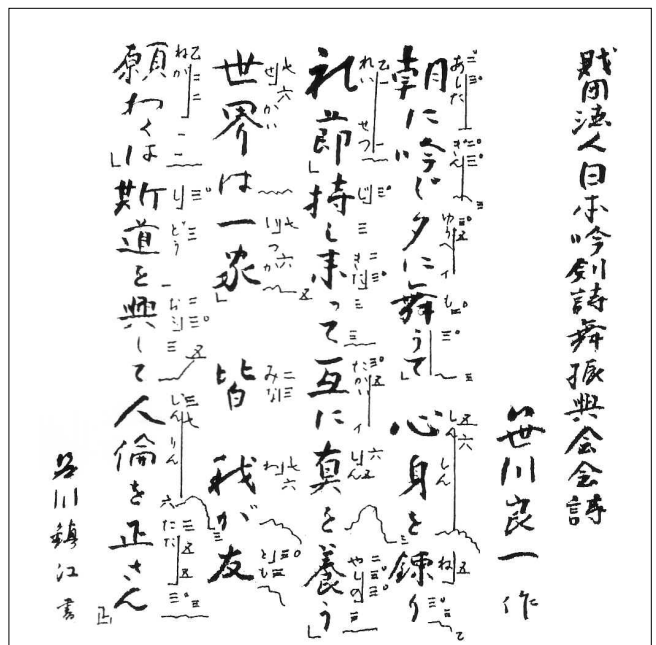
〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-4-10虎ノ門35森ビル7階
電話 (03) 6721-5950 (代表)
FAX (03) 6721-5960

大会次第

- | | |
|--------------------|---------------------|
| 一、開会の辞 | 一、幼年・少年・青年の部 審査結果発表 |
| 一、国歌斉唱 | 一、競演 剣舞 一般一部・二部・三部 |
| 一、財団会詩合吟 | 一、競演 詩舞 一般一部・二部・三部 |
| 一、財団代表挨拶 | 一、審査講評 |
| 一、競演実施要項説明 | 一、審査結果発表並びに入賞者表彰 |
| 一、審査委員紹介 | 一、閉会の辞 |
| 一、競演 剣舞 幼年・少年・青年の部 | |
| 一、競演 詩舞 幼年・少年・青年の部 | |
- (注意) 一、役員集合 午前八時三〇分
 二、審査委員会議 午前九時〇〇分
 三、出演者集合 午前九時〇〇分
- 時間厳守

令和二年度全国剣詩舞コンクール指定吟題

☆剣舞		☆詩舞	
(幼年・少年の部)		(幼年・少年の部)	
1 九月十三夜陣中の作	上杉 謙信	1 桜祠に遊ぶ	広瀬 旭荘
2 将(東遊せん)として壁に懸(か)り	积 月性	2 山 行	杜 牧
3 日本刀	大鳥 圭介	3 和歌・ほろほると	行 基
(青年・一般の部)		(青年・一般の部)	
1 稲叢懐古	太宰 春台	1 弘道館に梅花を賞す	徳川 景山
2 八幡公	頼 山陽	2 立山を望む	国分 青崖
3 易水送別	駱 賓王	3 春 月	菅 焦 鄰
4 剣 客	賈 島	4 廬山の瀑布を望む	李 白
5 和歌・身はたとい	吉田 松陰	5 和歌・ほのぼのと	詠み人知らず



令和元年度全国剣詩舞コンクール決勝大会役員

大会会長 沼崎 富
大会副会長 八文字 剛 洲

大会実行委員

青柳 芳寿朗
広渡 英治 大田 直樹
山内 正風 多田 正稔
黒田 秀月 宮川 紫朋
山本 賀陽 山口 華雋

☆審査委員

青柳 芳寿朗
特別審査委員 内田 寿子
審査委員 多田 正稔 黒田 秀月
田村天聖月 藤上 翔山
早淵 鯉将 入倉 昭山 杉浦 英容

☆大会特別顧問

菅原 雪山 入倉 昭星
工藤 龍堂 小幡 神叡
藤原 撰楠 矢萩 鳳祥
前島 昊龍 松岡 萌洲
廣重 光風 日置 彩峰
杉浦 容楓 増田 鵬泉
山路 泰洲 横山 寿城

☆大会参与

横山 精真 黒田 秀月
宮川 紫朋 鈴木 海洲
榊原 静芳 矢澤 鳳慶
石川 春洋 横田 岳理
佐々木朝鵬 菱谷 彩佑
梶 鳳映 勝部 吼嶺
寺嶋 城靖 栗野 電暉
久保田正峰 松永 悠楓
菊池 吟正 鈴木 凱山
星野 紫虹 志塚 心将
小林 北鵬 森川 精修
梅澤 昌峰 阿部 吟鳳

平成十年度(第二十二回)

・剣舞の部
幼年の部 深谷 俊文(愛知)
少年の部 天野由希子(愛知)
青年の部 林 季永子(茨城)
一般一部 鈴木 一人(愛知)
一般二部 広田 光次(愛知)
・詩舞の部
幼年の部 高岡 美恵(岡山)
少年の部 大野 晶子(愛知)
青年の部 長坂 紗織(愛知)
一般一部 星野久美子(徳川)
一般二部 小嶋 公子(京都)

平成十一年度(第二十三回)

・剣舞の部
幼年の部 白石 健太(愛知)
少年の部 鈴木 宏実(愛知)
青年の部 長坂 紗織(愛知)
一般一部 上岡 治生(三重)
一般二部 中瀬昌郎(大阪)
・詩舞の部
幼年の部 服部 幸海(愛知)
少年の部 平田 陽子(岡山)
青年の部 近藤 智美(愛知)
一般一部 山岡 貴子(兵庫)
一般二部 橋本 一恵(兵庫)

平成十二年度(第二十四回)

・剣舞の部
幼年の部 上羽麻一子(京都)
少年の部 藤野 舞(福岡)
青年の部 大岡 史帆(愛知)
一般一部 美濃浩一郎(三重)
一般二部 大岩 行代(愛知)
・詩舞の部
幼年の部 丸山 愛美(岡山)
少年の部 長坂 理絵(愛知)
青年の部 原 歩(岡山)
一般一部 田中 直美(京都)
一般二部 浅利 健代(岡山)

平成十三年度(第二十五回)

・剣舞の部
幼年の部 桜井 京子(愛知)
少年の部 大野 晶子(愛知)
青年の部 多田 和晃(大阪)
一般一部 新藤 正代(兵庫)
一般二部 稲垣 和子(愛知)
・詩舞の部
幼年の部 鈴木恵美子(岡山)
少年の部 長岡 加奈(岡山)
青年の部 石渡 千紘(愛知)
一般一部 今脇 眞弓(岡山)
一般二部 山名千鶴子(兵庫)

平成十四年度(第二十六回)

・剣舞の部
幼年の部 神尾 龍(愛知)
少年の部 長坂 理絵(愛知)
青年の部 伊藤 明(愛知)
一般一部 中瀬昌郎(大阪)
一般二部 小久保恵子(愛知)
・詩舞の部
幼年の部 服部 怜海(愛知)
少年の部 尾嶋 美紀(愛知)
青年の部 岡本菜穂子(愛知)
一般一部 美濃浩一郎(三重)
一般二部 藤本ヒロミ(兵庫)

平成十五年度(第二十七回)

・剣舞の部
幼年の部 加賀 裕人(愛知)
少年の部 藤野 綾(福岡)
青年の部 伊藤 武(愛知)
一般一部 鈴木 文枝(愛知)
一般二部 加藤 政恵(愛知)
・詩舞の部
幼年の部 高須 巳嘉(岡山)
少年の部 三宅 絢子(岡山)
青年の部 鈴木 宏実(愛知)
一般一部 上岡 治生(三重)
一般二部 菅原 かよ(東京)

平成十六年度(第二十八回)

・剣舞の部
幼年の部 野中 政利(栃木)
少年の部 早瀬 良宗(兵庫)
青年の部 鈴木 宏実(愛知)
一般一部 西原 香(兵庫)
一般二部 玉田 朝子(兵庫)
・詩舞の部
幼年の部 柴田きよ乃(愛知)
少年の部 鈴木恵美子(岡山)
青年の部 大野 晶子(愛知)
一般一部 甲本美恵子(岡山)
一般二部 笹野 和子(兵庫)

平成十七年度(第二十九回)

・剣舞の部
幼年の部 入倉慶志郎(愛知)
少年の部 入倉 眸(愛知)
青年の部 松本 典子(愛知)
一般一部 入倉 仁美(愛知)
一般二部 鈴木 文枝(愛知)
・詩舞の部
幼年の部 長澤 美元(愛知)
少年の部 野々上真由(岡山)
青年の部 梶原いづみ(岡山)
一般一部 奥田 悦代(岡山)
一般二部 今川 由美(兵庫)

平成十八年度(第三十回)

・剣舞の部
幼年の部 長澤 美元(愛知)
少年の部 五月女智仁(栃木)
青年の部 永井 譲(愛知)
一般一部 安藤 祐嗣(愛知)
一般二部 斎藤 憲子(愛知)
・詩舞の部
幼年の部 篠岡 佳奈(岡山)
少年の部 服部 幸海(愛知)
青年の部 長坂 理絵(愛知)
一般一部 坪田 里美(愛知)
一般二部 杉原 加代(広島)

◎総務委員長
同 副委員長
水谷 貴洲
永田 春濤
魚住 伸水

◎連絡委員長
同 副委員長
小林 瀨玉
梶原 麗修

◎剣舞受付委員長
同 副委員長
岡 眺蘭
黒柳 瀨心
小谷野煌弘

◎詩舞受付委員長
同 副委員長
山下 神燈
染谷 優戈
齋木 彩染
猿渡 柳水

◎庶務委員長
同 副委員長
加藤 契琵

◎資料管理委員長
同 委員
黒川 錦桜
鈴木 誠敬
荒井 剛嶺

◎資材管理委員長
同 委員
鈴木 洲玉
黒川 錦桜
鈴木 誠敬
荒井 剛嶺

◎同 委員
林 錦柳
相田 華鐘(医務担当)

◎同 委員
水谷 貴洲
永田 春濤
魚住 伸水

◎同 委員
小林 瀨玉
梶原 麗修

◎同 委員
岡 眺蘭
黒柳 瀨心
小谷野煌弘

◎同 委員
加藤 契琵

◎同 委員
黒川 錦桜
鈴木 誠敬
荒井 剛嶺

◎同 委員
鈴木 洲玉
黒川 錦桜
鈴木 誠敬
荒井 剛嶺

◎同 委員
林 錦柳
相田 華鐘(医務担当)

(県連代表)

中澤 春誠
白男川 冽風
高橋 經風
奥脇 嶽津
薦田 南尚

畑中 景心
寺嶋 城靖
立身 岳元
阿部 清心
斉野 岳城

栗野 電暉
高橋 瑞祥
一條 岳皇
宮川 紫朋

久保田 正峰
鈴木 海洲
甕 經風
沼崎 星翁

毛塚 静精
横山 精真
小松 獅剣
飯田 報信

深浦 精正
白井 寛洲
松澤 天楓
前濱 錦城

渡邊 皇洲
後藤 娟桜
堀口 孝心
中谷 将鳳

山田 静将
横山 寿城
松谷 國章
北川 哲水

松島 南洲
宮野 鶴誠
大本 翠山
高木 法洲

佐藤 翔風
神田 清峰
徳田 寿風
安永 江悠

山下 明穂
竹内 岳南
笠井 栄俊
赤峰 郁霊

松本 豊旺
藤本 誠堂
岳周 岳匠
向山 侑吟

日向美代峰
金城 岳周

昭和六十三年度(第十一回)
・剣舞の部
幼年の部 西邑 敦夫(大阪) ⊗
少年の部 宗 弘樹(兵庫) ⊗
青年の部 建部 司(愛知) ⊗
一般の部 中川 裕子(佐賀) ⊗
一般の部 河合 喜一(愛知) ⊗

・詩舞の部
幼年の部 赤波根智美(山口) ⊗
少年の部 大岡 史帆(愛知) ⊗
青年の部 大日方里美(愛知) ⊗
一般の部 小西 悦子(兵庫) ⊗
一般の部 油谷 淳子(東京) ⊗

平成元年度(第十二回)
・剣舞の部
幼年の部 山口 育也(愛知) ⊗
少年の部 伊藤 修司(愛知) ⊗
青年の部 鈴木 一人(愛知) ⊗
一般の部 早瀬 肇(兵庫) ⊗
一般の部 滝 吉治(兵庫) ⊗

・詩舞の部
幼年の部 長坂 紗織(愛知) ⊗
少年の部 山本 智美(愛知) ⊗
青年の部 安藤 祐嗣(愛知) ⊗
一般の部 柏原 徳子(東京) ⊗
一般の部 東嶋ユキ子(大阪) ⊗

平成二年度(第十三回)
・剣舞の部
幼年の部 淡谷 亮太(愛知) ⊗
少年の部 西邑 晃一(大阪) ⊗
青年の部 吉岡 淳史(岡山) ⊗
一般の部 加司 和博(大阪) ⊗
一般の部 酒巻 照由(栃木) ⊗

・詩舞の部
幼年の部 石渡 千紘(愛知) ⊗
少年の部 伊藤 修司(愛知) ⊗
青年の部 建部 司(愛知) ⊗
一般の部 福安 和子(愛知) ⊗
一般の部 蟹江 功子(愛知) ⊗

平成三年度(第十四回)
・剣舞の部
幼年の部 長坂 紗織(愛知) ⊗
少年の部 西邑 敦夫(大阪) ⊗
青年の部 伊藤 修司(愛知) ⊗
一般の部 大澤 三枝(静岡) ⊗
一般の部 尾崎 庄一(愛知) ⊗

・詩舞の部
幼年の部 渡辺 直美(岡山) ⊗
少年の部 石渡 千紘(愛知) ⊗
青年の部 安藤 由記(愛知) ⊗
一般の部 石原 明子(兵庫) ⊗
一般の部 松本 房子(兵庫) ⊗

平成四年度(第十五回)
・剣舞の部
幼年の部 栗田 健二(岡山) ⊗
少年の部 熊谷 公江(愛知) ⊗
青年の部 伊藤 由康(愛知) ⊗
一般の部 岡本 達夫(岡山) ⊗
一般の部 今泉多美子(佐賀) ⊗

・詩舞の部
幼年の部 関 みのり(愛知) ⊗
少年の部 長坂 紗織(愛知) ⊗
青年の部 中神 友佳(愛知) ⊗
一般の部 大岡寿美子(愛知) ⊗
一般の部 中尾 章子(岡山) ⊗

平成五年度(第十六回)
・剣舞の部
幼年の部 山本 享穂(愛知) ⊗
少年の部 山口 育也(愛知) ⊗
青年の部 杉浦 裕美(愛知) ⊗
一般の部 内山 宗信(香川) ⊗
一般の部 小松 武夫(山梨) ⊗

・詩舞の部
幼年の部 大野 晶子(愛知) ⊗
少年の部 小野 藍子(兵庫) ⊗
青年の部 田中 佳子(岡山) ⊗
一般の部 平岡 紀彰(茨城) ⊗
一般の部 鈴木 敏子(愛知) ⊗

平成六年度(第十七回)
・剣舞の部
幼年の部 多田 翼(大阪) ⊗
少年の部 白井ますみ(愛知) ⊗
青年の部 原 弦太郎(兵庫) ⊗
一般の部 辨天 繁和(奈良) ⊗
一般の部 池田 勉(福岡) ⊗

・詩舞の部
幼年の部 三宅百合子(岡山) ⊗
少年の部 渡辺 直美(岡山) ⊗
青年の部 大岡 史帆(愛知) ⊗
一般の部 折敷舞及美(佐賀) ⊗
一般の部 北出 成美(兵庫) ⊗

平成七年度(第十八回)
・剣舞の部
幼年の部 高岡 美和(岡山) ⊗
少年の部 長坂 紗織(愛知) ⊗
青年の部 安藤 祐嗣(愛知) ⊗
一般の部 尾崎 裕美(愛知) ⊗
一般の部 蟹江 功子(愛知) ⊗

・詩舞の部
幼年の部 長岡 加奈(岡山) ⊗
少年の部 関 みのり(愛知) ⊗
青年の部 鈴木 一人(愛知) ⊗
一般の部 田中 佳子(岡山) ⊗
一般の部 大持恵美子(兵庫) ⊗

平成八年度(第十九回)
・剣舞の部
幼年の部 加司 晃也(大阪) ⊗
少年の部 山本 享穂(愛知) ⊗
青年の部 熊谷 公江(愛知) ⊗
一般の部 建部 司(愛知) ⊗
一般の部 林 建紀(高知) ⊗

・詩舞の部
幼年の部 鈴木 宏実(愛知) ⊗
少年の部 原 歩(岡山) ⊗
青年の部 原 弦太郎(兵庫) ⊗
一般の部 杉浦 裕美(愛知) ⊗
一般の部 寺中トミ江(兵庫) ⊗

平成九年度(第二十回)
・剣舞の部
幼年の部 山本 季和(愛知) ⊗
少年の部 伊藤 武(愛知) ⊗
青年の部 中神 友佳(愛知) ⊗
一般の部 杉浦 裕美(愛知) ⊗
一般の部 大倉 敏子(兵庫) ⊗

・詩舞の部
幼年の部 三宅 絢子(岡山) ⊗
少年の部 岡本 理恵(岡山) ⊗
青年の部 荒谷早智子(愛知) ⊗
一般の部 見城はるの(静岡) ⊗
一般の部 松本 桂子(兵庫) ⊗

全国剣詩舞コンクール決勝大会優勝者一覧表

<p>昭和五十四年度(第二回)</p> <p>・剣舞の部 少年の部 原 啓太郎(兵庫) ⊗ 青年の部 母利奈生美(兵庫) ⊗ 一般一部 天野 福子(東京) ⊗ 一般二部 小松 和恵(高知) ⊗</p> <p>・詩舞の部 少年の部 藤上 桂子(岡山) 青年の部 安井 智春(岐阜) 一般一部 石川具美子(愛知) 一般二部 千房シゲ子(大阪)</p>	<p>昭和五十六年度(第四回)</p> <p>・剣舞の部 少年の部 原 弦太郎(兵庫) 青年の部 城所 紀彰(愛知) 一般一部 八木 保博(兵庫) ⊗ 一般二部 清原 良二(大阪) ⊗</p> <p>・詩舞の部 少年の部 小枝 由貴(京都) ⊗ 青年の部 米倉 啓予(兵庫) ⊗ 一般一部 松本 栄子(大阪) 一般二部 高井トヨ子(岐阜)</p>	<p>昭和五十八年度(第六回)</p> <p>・剣舞の部 少年の部 安藤 祐嗣(愛知) ⊗ 青年の部 小野 浩子(千葉) 一般一部 小野口富子(栃木) 一般二部 須藤 初江(徳川) ⊗</p> <p>・詩舞の部 少年の部 横山奈津子(宮崎) 青年の部 芝山 陽子(三重) ⊗ 一般一部 山本 演志(岐阜) ⊗ 一般二部 安部 匡弘(東京)</p>	<p>昭和六十年(第八回)</p> <p>・剣舞の部 少年の部 松島 一夫(福岡) 青年の部 加司 和博(奈良) 一般一部 木瀬十恵(山梨) 一般二部 中神よし子(愛知) ⊗</p> <p>・詩舞の部 少年の部 亀井 美乃(愛知) ⊗ 青年の部 杉浦 裕美(愛知) ⊗ 一般一部 和田 栄子(大阪) ⊗ 一般二部 森 敏子(岐阜)</p>	<p>昭和六十二年(第十回)</p> <p>・剣舞の部 幼年の部 熊谷 公江(愛知) ⊗ 少年の部 岡 千代志(福岡) ⊗ 青年の部 林 観照(東京) 一般一部 広田 光次(愛知) 一般二部 山田 光雄(静岡)</p> <p>・詩舞の部 幼年の部 山本 智美(愛知) ⊗ 少年の部 大日方里美(愛知) ⊗ 青年の部 城所 紀彰(愛知) ⊗ 一般一部 佐治 尚子(京都) ⊗ 一般二部 佐藤田鶴子(静岡) ⊗</p>
<p>昭和五十三年度(第一回)</p> <p>・剣舞の部 少年の部 城所 紀彰(愛知) ⊗ 青年の部 小野口富子(栃木) 一般一部 林 博子(愛媛) 一般二部 遠藤智恵子(東京)</p> <p>・詩舞の部 少年の部 山口さおり(茨城) 青年の部 市木 優子(東京) ⊗ 一般一部 原 真知子(兵庫) ⊗ 一般二部 中島寿恵(東京) ⊗</p>	<p>昭和五十五年度(第三回)</p> <p>・剣舞の部 少年の部 大津 知紀(兵庫) 青年の部 大野多久美(大阪) ⊗ 一般一部 町田 智恵(東京) 一般二部 金井 正光(大阪) ⊗</p> <p>・詩舞の部 少年の部 杉浦 裕美(愛知) ⊗ 青年の部 菊川 禎恵(北豊) ⊗ 一般一部 齊藤 守(千葉) ⊗ 一般二部 四分 千代子(東京)</p>	<p>昭和五十七年度(第五回)</p> <p>・剣舞の部 少年の部 小島 一勝(京都) ⊗ 青年の部 柴田 裕弘(兵庫) ⊗ 一般一部 小山 博子(兵庫) 一般二部 高橋 光江(徳川) ⊗</p> <p>・詩舞の部 少年の部 池野 映子(大阪) ⊗ 青年の部 藤上 桂子(岡山) 一般一部 原 京子(兵庫) ⊗ 一般二部 中神よし子(愛知) ⊗</p>	<p>昭和五十九年度(第七回)</p> <p>・剣舞の部 少年の部 安藤 由記(愛知) ⊗ 青年の部 高井 博代(兵庫) 一般一部 小野 尊由(兵庫) ⊗ 一般二部 多田栄美子(大阪) ⊗</p> <p>・詩舞の部 少年の部 亀井 秀明(愛知) ⊗ 青年の部 石原 明子(兵庫) ⊗ 一般一部 大持恵美子(兵庫) 一般二部 伊東希美子(東京)</p>	<p>昭和六十一年度(第九回)</p> <p>・剣舞の部 幼年の部 西邑 晃一(大阪) 少年の部 小枝 由貴(京都) 青年の部 朝野 公明(兵庫) 一般一部 鈴木 敏子(愛知) 一般二部 安部 匡弘(東京)</p> <p>・詩舞の部 幼年の部 大岡 史帆(愛知) ⊗ 少年の部 安藤 由記(愛知) ⊗ 青年の部 齊藤 和美(山梨) ⊗ 一般一部 小山 博子(兵庫) ⊗ 一般二部 藤井 英子(兵庫) ⊗</p>

同 委員	加茂 媛鵬	河西風慶律	吉野 煌瑤	◎大会本部事務局 事務局長 大田 直樹 事業課長代理 大塚 政暢 総務係長 鶴町 和成	◎会場委員長 同 副委員長 久保 峯國 同 委員 福田 劔鵬	◎賞状作成委員長 同 副委員長 石井 錦文 同 委員 土田 恵耀	◎賞典委員長 同 副委員長 藤井 伯陵 同 委員 黒田 聖岳 野田 芦孝	◎接待委員長 同 副委員長 杉本 豊翠 同 委員 山崎 鳳洲	◎司会委員長 同 副委員長 清水 錦洲 同 委員 田中 国臣 今村 契鉅	◎広報委員長 同 副委員長 渡 精華 田中 竜真	◎舞台進行委員長 同 副委員長 石井 誠紀 鈴木 鳳洲	◎音響委員長 同 副委員長 小林 岳章 林 煌成 野路 銘峰	◎集計委員長 同 副委員長 熊木 雪洲 土屋 恵鵬 河上 麗風	同 委員	宇田川彩鳳	横山 吟友	北川 鍛星	寺山 天洲	山崎 鳳洲	清水 錦洲	田中 国臣	今村 契鉅	渡 精華	石井 誠紀	小林 岳章	林 煌成	野路 銘峰	熊木 雪洲	土屋 恵鵬	河上 麗風	加茂 媛鵬	宇田川彩鳳	横山 吟友	北川 鍛星	寺山 天洲	山崎 鳳洲	清水 錦洲	田中 国臣	今村 契鉅	渡 精華	石井 誠紀	小林 岳章	林 煌成	野路 銘峰	熊木 雪洲	土屋 恵鵬	河上 麗風	加茂 媛鵬
------	-------	-------	-------	--	--------------------------------------	--	---	--------------------------------------	---	--------------------------------	-----------------------------------	---	--	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	-------	-------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	-------	-------	------	-------	-------	-------	-------	-------

134	133	132	131	130
田中トミコ	内藤恭子	金屋俊枝	山口保子	武山暉代
愛媛	大分	広島	茨城	北紋
中秋の月	母を奉じて 嵐山に遊ぶ	母を奉じて 嵐山に遊ぶ	中秋の月	宝船

予 告

●第五十一回全国吟剣詩舞道大会

▽と き 令和元年十一月九日(土)

・十日(日)

▽と ころ 国技館(東京・両国)



月刊『吟と舞』ご購入のお願い

月刊誌『吟と舞』は、指導者および一般愛好者の皆さんに不可欠の吟剣詩舞道界の幅広い情報誌として、また、教養誌として発行されています。

購読料は年間五、〇〇〇円(送料込)です。お申し込みは、公益財団法人日本吟剣詩舞振興会事務局『吟と舞』係あて、購読料を添えてお申し込み下さい。
どなたでも購読できます。どうぞ、お気軽にお申し込み下さい。

令和元年度全国剣詩舞コンクール決勝大会実施要項

- (1) このコンクールは、わが国の伝統芸道である剣舞・詩舞道に親しむ一般並びに青少年に、日ごろの剣詩舞道精進の成果を競う場を与えると同時にすぐれた剣詩舞道人を発掘し、これを表彰して斯道の向上と普及・発展を図ることを目的とし、この「全国剣詩舞コンクール決勝大会実施要項」に基づいて実施する。
- (2) 「コンクール」は、左の六部門に分けて行なうものとする。

区分	幼年の部	少年の部	青年の部	一般一部	一般二部	一般三部
資格	12才未満	12才以上 18才未満	18才以上 35才未満	35才以上 55才未満	55才以上 70才未満	70才以上

(いずれも年齢は平成三十一年四月一日現在とする。)

- (3) コンクールの出場者は公益財団法人日本吟剣詩舞振興会(以下「財団」と略称)が全国八地区連絡協議会に委嘱して行なわれた(4)項の予選大会に出場して入賞し選出されたものであり、プログラムに記載された氏名者以外のとび込みは許されない。

- (4) 地区予選大会の名称とその包含地域
- I 北海道地区大会(道央・道南・道北・道東・北紋)
 - II 東北地区大会(青森・秋田・岩手・山形・宮城・福島・新潟)
 - III 東日本地区大会(山梨・群馬・栃木・茨城・埼玉・千葉・神奈川・東京)
 - IV 中部地区大会(静岡・愛知・長野・富山・石川・福井・岐阜・三重)
 - V 近畿地区大会(滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山)
 - VI 中国地区大会(岡山・広島・山口・鳥取・島根)
 - VII 四国地区大会(香川・愛媛・徳島・高知)
 - VIII 九州地区大会(福岡・大分・佐賀・長崎・宮崎・熊本・鹿児島・沖縄)
- (5) この大会の審査委員は財団本部常任理事会に於て委嘱されたものである。

(6) 出場者演舞のルール

I 出場順……申込後、厳正公平な抽選で決定したプログラム順とする。変更は特別の事由に基づき、大会会長が認めたものでないかぎり許されない。ただし、それも出場部門の競演実施中に限られる。

II 演舞吟題……指定吟題の中からあらかじめ届け出たものとし、予選、決選とも同じ演舞吟題とする。なお、その吟は財団作成の「平成三十一年度吟剣詩舞道吟詠集」テープ及びCDを使用する。

III 衣裳と持ち道具

剣舞……①衣裳は紋付など和服、または稽古衣、はかま着用とし、なるべく簡素化したものとする。②足袋及びたすきの着用は自由とする。③持ち道具は、武器及び扇子などとする。

詩舞……①衣裳は和服、はかま着用とし、なるべく簡素化したものとする。②持ち道具は自由とし、なるべく簡素化したものとする。③扇子の型状、色彩などは自由とする。以上の原則に準じている場合は減点の対象としない。ただし、

原則を著しく逸脱している場合は、減点の対象とする。
IV 舞台照明……地あかりのみとし、バックはホリゾンント（白）使用を原則とする。

V 演舞の要領……①司会者が出場者の番号、氏名、演題を紹介、一呼吸おいてテープが流される。②出場は上手、下手、板付いずれでもよい。また、そのタイミングも司会者の出場紹介が始まってからならいつでもよい。③振り付けは前奏、後奏を含めた全体でもよいし、詩文のみでもよい。演舞終了時、舞台にある振り付けの場合でも立礼は必要としない。なお、採点の対象は、原則として舞台出場から退場までの間の出場者の演技及び立居振舞とする。

(7)

コンクールの審査要領

I 審査基準は財団の「剣詩舞コンクール審査規定」を適用する。
II 審査の基本方針は、剣舞・詩舞は吟詠の調べに合わせて詩歌のこころを体技をもって表現する芸道である。斯道の本質を踏まえ、芸としての向上を図るうえで不可欠なものは詩歌的表現力である。この前提に立って審査の項目及び配点を、次

「詩舞」一般二部

114	113	112	111	110	109	108
成田けい子	鈴木文枝	澤田紀代子	加来貴子	籾内享子	井上もと子	五月女益美
道央松島	愛知松島	広島 中秋の月	福岡 中秋の月	京都松島	愛媛 中秋の月	栃木 母を奉じて 嵐山に遊ぶ

122	121	120	119	118	117	116	115
八森しづゑ	石光順恵	高尾啓子	藤田佳代	伊藤トモエ	水川政重	松永文幸	西川ひろ子
栃木 中秋の月	岡山 和歌・面影に	香川 中秋の月	大分 母を奉じて 嵐山に遊ぶ	愛知 中秋の月	岡山 和歌・面影に	佐賀松島	京都 中秋の月

「詩舞」一般三部

129	128	127	126	125	124	123
中根たつ子	吉崎悦子	井本勝子	山崎せつ子	灘部鈴子	山田幸子	三宅美登里
愛知宝船	新潟松島	兵庫 和歌・面影に	茨城 和歌・面影に	東京 中秋の月	愛媛 母を奉じて 嵐山に遊ぶ	兵庫松島

「剣舞」一般三部

93	92	91	90	89	88	87
三野正二	新田範彦	安部敬子	佐藤勝喜	加藤登規	浦上美智子	津村恵子
愛媛	広島	愛知	東京	兵庫	道央	長崎
焦心録後に題す	和歌・ゆきくれて	越中覽古	和歌・ゆきくれて	越中覽古	焦心録後に題す	桔梗原を過ぐ

「詩舞」一般一部

100	99	98	97	96	95	94
伊藤修司	松山知子	林亮志	石川公江	吉田訓子	石川明美	永岡澄子
愛知	岡山	愛媛	愛知	熊本	茨城	岡山
宝船	和歌・面影に	中秋の月	母を奉じて 嵐山に遊ぶ	松島	和歌・面影に	和歌・面影に

107	106	105	104	103	102	101
上村恵美	友井川泰子	佐々木まなみ	橋口稔子	小嶋一勝	入倉仁美	渡邊実佐
道央	兵庫	京都	高知	京都	愛知	福岡
松島	松島	中秋の月	和歌・面影に	中秋の月	和歌・面影に	中秋の月

のように設定する。

A 技術的表現力(50点配点)

① 基礎技量……30点 ② 錬磨度……20点

B 芸術的表現力(50点配点)

① 詩心表現力……30点 ② 舞台表現……20点

(8) 審査除外(失格)

I 遅刻、指定テープ外演舞、演舞放棄、その他審査委員長が失格と認めた場合。

II 審査結果発表並びに入賞者表彰時に出場者本人が不在の場合。

(9) 全国大会の出場者数と表彰

I 9頁別表の通り。

II 出場者には参加賞を授与する。

III 幼・少年出場者のうち遠距離参加者については本人の旅費を財団で負担する。

IV 各部一位入賞者は第五十一回全国吟剣詩舞道大会に於て、全国剣詩舞コンクール優勝者として出演する。

V 剣舞、詩舞各部に次の賞を贈る。

〈幼年の部〉

一位 文部科学大臣賞(剣舞・詩舞のいずれか上位者)

二位 会長賞・金メダル・NHK杯

三位 会長賞・銀メダル

四位 会長賞・銅メダル

〈少年の部〉

一位 文部科学大臣賞(剣舞・詩舞のいずれか上位者)

二位 会長賞・金メダル・NHK杯

三位 会長賞・銀メダル

四位 会長賞・銅メダル

五位 会長賞

〈青年の部〉

一位 文部科学大臣賞(剣舞・詩舞のいずれか上位者)

二位 会長賞・金メダル・NHK杯

三位 会長賞・銀メダル

四位 会長賞・銅メダル

五位 会長賞

71	70	69	68	67	66	65	64
石田泰範	高橋博之	篠原友美	永井聡多	白山敦子	宮岡貴子	松島一夫	林大祐
大分	群馬	香川	愛知	道央	高知	福岡	広島
越中覧古	越中覧古	越中覧古	焦心録後に題す	和歌・ ゆきくれて	越中覧古	越中覧古	和歌・ ゆきくれて

78	77	76	75	74	「剣舞」一般二部		73	72
濱岡眞澄	竹口敦子	高根沢敏江	櫻井悟	森田みたか			犬飼秀文	大津知紀
京都	道央	栃木	福岡	兵庫	岡山	兵庫	兵庫	
焦心録後に題す	越中覧古	焦心録後に題す	焦心録後に題す	焦心録後に題す	越中覧古	焦心録後に題す	焦心録後に題す	

86	85	84	83	82	81	80	79
谷田洋子	野澤操	大澤三枝	竹森裕二	高田一也	西村美輪	日永田絹江	松川啓子
高知	東京	静岡	広島	新潟	高知	福岡	愛知
和歌・ ゆきくれて	越中覧古	和歌・ ゆきくれて	和歌・ ゆきくれて	暁に発す	桔梗原を過ぐ	暁に発す	和歌・ ゆきくれて

〈一般一部〉

- 一位 文部科学大臣賞（剣舞・詩舞のいずれか上位者）
会長賞・金メダル・民放杯
- 二位 会長賞・銀メダル
- 三位 会長賞・銅メダル
- 四位～五位 会長賞

〈一般二部〉

- 一位 文部科学大臣賞（剣舞・詩舞のいずれか上位者）
会長賞・金メダル・民放杯
- 二位 会長賞・銀メダル
- 三位 会長賞・銅メダル
- 四位～五位 会長賞

また、文部科学大臣杯及び各部一位入賞者（優勝者）へ授与する会長杯は持ち回りとする。

〈一般三部〉

- 一位 会長賞・金メダル・民放杯
- 二位 会長賞・銀メダル
- 三位 会長賞・銅メダル

(10) 「コンクール」進行中の拍手、声援、私語雑談及び大会本部許可の報道関係者並びに記録班以外の会場内での写真撮影、ビデオ等の録画は禁止する。

(11) 本コンクールにおいて財団が撮影した写真や映像については、財団が発行する雑誌、公式ホームページ及びテレビ放映などにて使用する場合があります。

※「審査結果発表並びに入賞者表彰時の留意事項」

入賞者は、表彰式典に出演衣裳で臨んでください。
 幼年・少年・青年の部の審査結果は、昼食休憩終了後の剣舞一般一部・二部・三部の審査開始前に発表されます。幼年・少年・青年の部出場者はこの時間に必ずコンクール会場にいてください。一般一部・二部・三部出場者も含めて、審査結果発表時に出場者本人が不在の場合は失格となります。

令和元年度全国剣詩舞及び群舞コンクール指定吟題

☆剣舞 (幼年・少年の部) 1 楠公子に訣るるの因に題す 2 家兄に寄せて志を言う 3 爾靈山		☆詩舞 (幼年・少年の部) 1 春日家に還る 2 富士山 3 和歌・東海の	
(青年・一般の部) 1 焦心録後に題す 2 暁に発す 3 桔梗原を過ぐ 4 越中覽古 5 和歌・ゆきくれて		(青年・一般の部) 1 宝 船 2 母を奉じて嵐山に遊ぶ 3 松 島 4 中秋の月 5 和歌・面影に	
1 一の谷懐古 2 前兵児の謡 3 白虎隊	頼川 星巖 頼山陽 佐原 盛純	高杉 晋作 月田 蒙齋 頼支峯 李 白 平 忠度	藤野 君山 頼山陽 岩溪 裳川 蘇 軾 藤原 俊成
1 桜花の詞 2 天草洋に泊す 3 小田原懐古	作者不詳 頼山陽 鈴木 豹軒	石川 文山 石川 啄木	正岡 子規 石川 文山 石川 啄木

49	48	47	46	45	44	43	42
上野愛莉	平田彩月華	山崎華子	桑田あや萌	西浦輝	原光希	日野晴菜	柴本佳乃愛
道北	岡山	佐賀	香川	愛知	兵庫	福岡	愛知
和歌・東海の	春日家に還る	春日家に還る	春日家に還る	富士山	和歌・東海の	富士山	和歌・東海の

「詩舞」青年の部

56	55	54	53	52	51	50
神尾舞	増井章高	柴田讓	西浦美穂	松川佳央梨	入倉慶志郎	五月女智仁
愛知	兵庫	愛知	徳島	熊本	愛知	栃木
和歌・面影に	松島	中秋の月	宝船	和歌・面影に	宝船	中秋の月

令和元年度全国剣詩舞コンクール決勝大会出場者数

地区別	資格区分	幼年	少年	青年	一般一部	一般二部	一般三部	合計
		11歳まで	12~17歳まで	18~34歳まで	35~54歳まで	55~69歳まで	70歳以上	
北海道	剣舞	0	0	1	1	1	1	4
	詩舞	1	1	0	1	1	1	5
東北	剣舞	1	0	1	0	1	0	3
	詩舞	0	1	0	0	0	1	2
東日本	剣舞	1	2	3	1	2	1	10
	詩舞	1	1	2	1	4	1	10
中部	剣舞	1	2	3	3	2	1	12
	詩舞	1	2	3	3	2	1	12
近畿	剣舞	1	2	2	2	2	1	10
	詩舞	1	2	2	3	3	1	12
中国	剣舞	1	1	1	2	1	1	7
	詩舞	1	2	1	2	3	1	10
四国	剣舞	1	1	1	2	2	1	8
	詩舞	1	1	1	2	3	1	9
九州	剣舞	1	1	2	2	2	1	9
	詩舞	1	2	2	2	3	1	11
計	剣舞	7	9	14	13	13	7	63
	詩舞	7	12	11	14	19	8	71
入賞	剣舞	3位まで	5位まで	5位まで	5位まで	5位まで	3位まで	134
	詩舞	3位まで	5位まで	5位まで	5位まで	5位まで	3位まで	

「剣舞」一般一部

63	62	61	60	59	58	57
多田幸世	荒谷早智子	中田加奈子	松本文	野澤美裕	永光美佳	若本未知恵
大阪	愛知	愛知	兵庫	東京	福岡	広島
越中覽古	越中覽古	和歌・ゆきくれて	中秋の月	中秋の月	母を奉じて嵐山に遊ぶ	母を奉じて嵐山に遊ぶ

◎コンクール出場者氏名

「剣舞」幼年の部

出演順	氏名	推薦	演題	成績
1	戸田宙希	滋賀	楠公子に訣るるの図に題す	
2	吉田陸人	徳島	楠公子に訣るるの図に題す	
3	高橋陽向花	茨城	爾靈山	
4	三木絢菜	長崎	楠公子に訣るるの図に題す	
5	田邊波琉斗	岡山	楠公子に訣るるの図に題す	

「剣舞」少年の部

8	今村侑矢	福岡	楠公子に訣るるの図に題す	
9	日外佳帆	兵庫	爾靈山	
10	安藤翔	岡山	家兄に寄せて志を言う	
11	安藤優	愛知	楠公子に訣るるの図に題す	
12	多田啓良	大阪	家兄に寄せて志を言う	

6	永田菜桜	愛知	爾靈山	
7	金塚颯誠	新潟	爾靈山	

「剣舞」青年の部

17	友井川友	兵庫	越中覽古	
18	杉浦きよ乃	愛知	桔梗原を過ぐ	
19	高橋英誠	徳島	焦心録後に題す	

13	神田蓉	東京	家兄に寄せて志を言う	
14	石川姫麗	愛知	楠公子に訣るるの図に題す	
15	竹内峻真	千葉	楠公子に訣るるの図に題す	
16	吉田悠人	徳島	爾靈山	

「詩舞」幼年の部

28	松坂界良	群馬	曉に発す	
29	田中太陽	群馬	焦心録後に題す	
30	下屋敷洋介	道央	越中覽古	
31	和泉璃子	香川	春日家に還る	
32	佐々木美愛	東京	和歌・東海の	
33	永井穂香	兵庫	春日家に還る	
34	渡邊紀夏	福岡	春日家に還る	

「詩舞」少年の部

35	佐藤羽華	道北	富士山	
36	建部有咲	愛知	春日家に還る	
37	片山心結	岡山	春日家に還る	
38	坪井優成	広島	春日家に還る	
39	駒田秀果	京都	和歌・東海の	
40	大内彩文香	埼玉	春日家に還る	
41	大谷勇斗	福島	和歌・東海の	

20	入倉真之将	愛知	和歌・ゆきくれて	
21	杭田永遠	岡山	越中覽古	
22	本城愛実	大分	和歌・ゆきくれて	
23	上岡隆生	三重	焦心録後に題す	
24	鉤麻美	滋賀	焦心録後に題す	
25	佐々木真功名	青森	焦心録後に題す	
26	竹内彩夏	千葉	越中覽古	
27	永田大地	福岡	桔梗原を過ぐ	